

## 令和4年度第1回豊橋市立小・中学校通学区域審議会 会議録要旨

- 1 開催日時 令和5年2月16日(木) 15時00分～16時20分
- 2 開催場所 教育委員会室(豊橋市役所東館12階)
- 3 出席者 ・委員:芳賀亜希子、河野宏雄、松崎正尚、芳賀裕崇、  
門谷秀俊、山本茂美、本多宏成、高梨諭司 ※敬称略  
・事務局:浅倉淳志(教育政策課長)  
根本和弘(教育政策課主幹)  
戸蒔宴子(教育政策課課長補佐)  
天野秀典(教育政策課指導主事)  
西口 勝(教育政策課政策グループ主査)  
緒方 開(教育政策課政策グループ主事)
- 4 欠席委員 なし
- 5 議 事  
進行:事務局 教育政策課長
  - (1) 委員の紹介  
芳賀委員より順に自己紹介
  - (2) 役員を選任について  
互選により会長に芳賀亜希子委員、副会長に河野宏雄委員を選出  
進行:芳賀会長
  - (3) 所掌事項について
  - (4) 特定地域隣接校選択制について
  - (5) 特認校制度について
  - (6) 「今後の学校のあるべき姿」に関するアンケート調査結果について

### ○主な意見・質問等(要旨)

#### 特定地域隣接校選択制について

##### <松崎委員>

平成19年度にこの制度が始まってから15年ほどたちました。始まった当初は、自治会の問題や地域の祭りの問題などが出ていたと聞いています。15年たって、今はどうでしょうか。

##### <教育政策課長>

祭りや子ども会の会費問題なども含めて、当初は課題がありました。それらを地域任せにせず、教育委員会として、ルール決めなど地域との協議を重ねてきましたので、大きなトラブルはありません。また現在、吉田方校区、松葉校区及び花田校区に行政が出向いて、地域の方との意見交

換会を開いています。そういった場を中心に、地元の方の意見を丁寧に吸い上げるようにしており、今後も続けていきたいと考えています。

#### 特認校制度（イマージョン教育含む）について

##### <門谷委員>

イマージョン教育コースのことを初めて知りました。入ってくる子はみんな外国籍や英語が堪能な子ばかりなののでしょうか。また、1年生で入学して、全員6年間通うのでしょうか。

##### <教育政策課指導主事>

定員 26 名のうち、帰国子女や外国籍のための特別枠が 6 名、その他の 20 名が一般枠となっています。入級はすべて抽選で、英語力などが入級条件になることはありません。英語がまったく話せない新入生もたくさんいますが、英語のシャワー浴びながら成長していきます。基本的に途中でやめる子はおりません。

##### <芳賀会長>

イマージョン教育コースの募集情報はどうしているのですか。

##### <教育政策課指導主事>

基本的には、教育委員会のホームページに情報をのせています。加えて、毎年夏休みに、未就学児を対象にイマージョンの体験入学を行っています。この企画については、市内のすべての幼稚園、保育園、こども園を通して、年長児全員に案内文書を届けています。毎年 2 日間で 200 人近くの園児がイマージョンを体験しています。

##### <松崎委員>

特認校制度がある 3 校はいずれも豊橋の北部地域ですが、太平洋側など、南部地域が小規模校対策として追加される計画などはありますか。

##### <教育政策課長>

今のところ、計画は持ち合わせておりません。

#### 「今後の学校のあるべき姿」に関するアンケート調査結果について

##### <門谷委員>

この資料では、行政側が統合したいと思っっているように感じてしまいます。小学校を統合すると、地域に学校がなくなるので、将来その地域に人々が住まなくなり、過疎化につながることはありませんか。文部科学省の役目は、学校を適正な規模に変えていくのではなく、その規模に合った教育を施すことにあると考えます。地域のことを考えた施策をしてほしいと思います。

そんな中、16 ページでは、小規模校に通わせている保護者は「2 学級」がよいと感じており、適正規模校に通わせている保護者は「3 学級」がよいと感じています。さらに大規模校に通わせている保護者は「4 学級以上」がよいと感じており、まさに、豊橋ではその規模に合った適切な教育ができていると思いました。

ただ、「適正規模」という言い方は気になりました。文部科学省が使っている言葉に行政として合わせているとのことですが、どこが適正かは、人それぞれ感じ方が違うと思います。統廃合など小規模校対策も、「適正化」というのではなく「平準化」という表現にしたほうがよいと感じています。

#### <教育政策課長>

学校規模について、市として今後の方向性を定めたわけではありません。考える際にも、行政が一方向的に決めるのではなく、地域の方をはじめ、さまざまな方のご意見をいただきながら進めていくつもりです。

#### <芳賀会長>

大規模校と小規模校の校長先生にお越しいただいていますが、1クラスあたりの児童生徒の適切な人数について、現場の先生方はどのようにお考えでしょうか。

#### <本多委員>

吉田方小学校は、多い学年で1クラス35名程度、少ない学年で1クラス32名程度が在籍しています。1クラスあたりの人数については、少ないと一人一人に目が行き届きやすいというよさがあります。逆に少なすぎると、競争が生まれにくかったり、物足りなさを感じたりする面もあります。多様な支援を必要とする子供たちが増えている中で、1クラスに30名以上が在籍すると、教員がもう一人いるとよいなと思うこともあります。

#### <高梨委員>

嵩山小学校は、全学年1クラスで、多いところは14名、少ないところは9名で生活しています。全学年10名前後であり、きめ細やかな教育ができていると思う半面、競争意識が低いなど感じることもあります。各学年1クラスしかいないため、縦割り活動を中心に、思いやりを育んだり多様な考えに触れたりする場面を意図的に作っています。また、話し合いの授業では全員が発言できるよさがありますが、練り合う場面で、もう少し深まりがあるとよいと感じることもあります。適正な人数については何とも言えませんが、多様な考えをもった子どもたちや保護者の方がいることを考えると、本校でいうと、もう少し人数がいてもよいかなと感じています。

#### <河野副会長>

現場の先生の声では、1クラス30名が一つのラインだと感じます。30名を越えるか越えないかで、教員が感じる負担感が変わってくるようです。また、以前勤務していた松葉小学校のように、教室数に限界があり、今以上に学級数が増え過ぎると困る学校もあると思います。

#### <松崎委員>

豊橋市は、自治連合会やPTAなど、小学校単位で動くことが数多くあります。また、市が考える都市計画もあるので、学校、地域、行政の3者が連携して動いていく必要があると思います。前芝地区の「小中一貫校」という施策も、郊外の地域には有効かもしれません。ただ、そういった施策を打つにしても、早い段階で行政が方向性を示すことは重要です。コロナ禍前に長崎市に

視察に行きましたが、急激な人口減少を予測して、その時点ですでに統廃合に伴う児童の通学方法など、具体的な議論をしていました。

<芳賀委員>

今後、子どもの数が増えることは厳しいと思っています。豊橋の実態として、住民がいないことによって自治会が機能していない地域もあります。住民自治と教育をセットにして、地域ごとの課題として考える必要があるのではないのでしょうか。そして、全体のバランスを考えた政策が必要であると思います。どういう形が本来あるべき姿か。最近統廃合をすすめた田原市も参考にするとよいと思います。

<河野副会長>

昨年度はのびるん de スクールの担当をされており、各地域を回らせていただきました。少ない人口でも、熱い思いをもった活気ある地域もあります。行政が焦らないことが重要です。人口減少という現実を直視しながら、地域の方の思いも大切にしてほしいと願います。

<芳賀会長>

本日はありがとうございました。以上で終了いたします。